

財団だより

第165号

2021.3
最終号

多摩川



キアシシギ

多摩川中流域のシギ類

写真・文 大野 章(川崎市多摩区在住)



アカアシシギ

日本で見られるシギ類は旅鳥が多い。繁殖地に向かう春、越冬地に戻る秋に一時的に立ち寄る。多摩川中流域も、そのシギ達にとって羽を休め、栄養を補給する大切な場所となっている。特に春の滞在は期間が長く、見る機会が多い。渡来するシギは、種類により十数cm～50cm程と大きさに幅がある。数も単独、数羽、数十羽の群れと様々。また、羽の色、嘴の形や長さ、脚の色や長さ、鳴き声などもバラエティーに富んでいる。更に採餌の様子や飛翔の姿にも、それぞれ特徴がある。

佇み、歩み、飛ぶシギの姿を水面に映し、今日も多摩川は静かに流れている。



アオアシシギ

目次

「財団だより 多摩川」最終号

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| ■ 卒業によせて…………… 2 | ■ 多摩川緊急治水対策プロジェクト… 8 |
| ■ 「財団だより 多摩川」タイトルリスト… 4 | ■ インフォメ/多摩川…………… 9 |
| ■ 多摩川散歩…………… 6 | ■ 財団からのお知らせ…………… 16 |
| ■ 多摩川に学ぶ…………… 7 | |

「卒業」に寄せて



多摩川浄化の経験を礎に、次のステージへ

造園家
東京都市大学 環境学部 特別教授
公益財団法人東急財団 理事

涌井 史郎

学術研究と市民活動の両方を支援

高度経済成長期を経た 1970 年代、多摩川は「死んだ川」といわれるほど水質汚染が深刻になっていました。東急東横線に乗って多摩川を渡るときに見下ろすと、川は洗剤の白い泡に覆われ、川面から電車の窓辺までふわふわとシャボン玉が飛んでくるような有様でした。

この川を何とかきれいにしなければいけないということで、東京急行電鉄株式会社（現 東急株式会社）の五島昇社長（当時）の発案で 1974 年に設立されたのが、「とうきゅう環境浄化財団」です。「東京西南部の私鉄はみんな多摩川にお世話になっているのだから、恩返しをしなければ」という五島社長の命を受け、まだ 20 代前半だった私は財団設立に尽力しました。当時は、一企業が環境に特化した財団を設立するなどということはまったく前例がなく、市民活動をされている皆さんや行政にもなかなか理解してもらえず、苦労したことを覚えています。

設立時から財団が重視したのは、専門家の学術研究と共に、市民の生活に根ざした研究や活動をしっかり支援することです。川は、流域の暮らしと不可分に結びついています。どれだけ専門家が研究成果を上げて、市民の理解と参加がなければ、多摩川の浄化は進まないだろうと考えたのです。

多摩川丸子橋付近の水質の変化
写真提供：東急株



1973 年頃



1993 年頃

多摩川を愛する人を増やし、つなぐ

市民に幅広く財団の支援活動を知ってもらい、多摩川を愛する人たちを増やしてつなぐために発刊したのが、この「財団だより 多摩川」です。1979 年 3 月に創刊号が発行されました。

発刊に当たっては、まだ信頼関係が築けていなかった市民活動団体にもどんどん出向いて、生の声を聞くことを重視しました。財団が多摩川の浄化に真剣に取り組んでいることを伝えるためには、まずは

きちんと市民の声を聞くことが必要だと思ったのです。

その中で次第に、理解者や協力者が増えていきました。狛江水害（1974年）の被害者の方が、「この水害のような悲劇を繰り返さないためには、堤防の強化だけではダメ。川の恵みや恐ろしさについて、自分たちがきちんと知って立ち上がらなければ」とおっしゃったことが、今も記憶に残っています。



創刊号（1979年3月発行）

水質から流域の文化まで広がる研究

環境問題、特に公害問題の解決にはインフラや法の整備が欠かせませんが、だからといって行政や企業だけが対応すれば解決するものではありません。今、世界的なムーブメントになっているSDGsもそうですが、市民一人ひとりが立ち上がらなければ、持続的な未来は実現できません。

多摩川が、約50年前の泡に覆われた状態から、今のような美しい姿を取り戻すことができたのも、多くの市民活動があったからこそだと考えています。財団が支援した活動で特に印象に残っているのは、各家庭の排水口に炭を吊すことで生活排水をきれいにするという流域の主婦による活動や、武蔵野台地の地下水の状態を調べるために、井戸のフタを一つずつ開けて水量調査をして作成した「水みちマップ」。どちらも、多くの市民の理解と協力が大きな力となって素晴らしい成果を上げました。また、地域の学校に、財団が制作した環境副読本『多摩川へ いこう』を継続的に配布したこともあり、先生が子どもたちと多摩川の生き物を調べる研究をされるなど、さまざまな活動や研究が広がっていきました。

研究内容も、次第に幅広くなっていきました。川の水質に直接関係するものから、流域の生活環境、生態系や文化などへと時代につれて視野が広がり、その変化は「財団だより 多摩川」の内容からも読み取れます。

「休刊」ではなく「卒業」

社会の変化や環境活動の進化に伴って、「多摩川の浄化」から始まった財団も、2019年4月に「とうきゅう留学生奨学財団」「五島記念文化財団」と統合し、「東急財団」として新たなスタートを切りました。これからの時代、人間が幸せに生きるためには、芸術・文化・環境をトータルで考えることが必要です。それを後押ししていくための財団の成長だと、私は思っています。

財団の成長に伴って「財団だより 多摩川」も、今号をもって休刊となります。しかし私は、「休刊」ではなく「卒業」と言いたい。50年余にわたって多摩川から教えてもらったことをベースに、さらに次の段階にステップアップするための卒業。全165号を通して培ったつながりは、大切な「母校」です。このつながりは、今後も折に触れて確かめ合い、協力していく縁になると確信しています。

今、コロナ禍が世界中に広がっています。私は、このパンデミックは自然からの警鐘だと捉えています。コロナ禍が収束した後が、私たちの正念場。パンデミック前の世界に戻るのではなく、人間も自然の一部だということをあらためて自覚し、自然に対するリスペクトを失わずに共生していく社会へと、大きく舵を切ることが迫られています。そのためにも、私たちがみんなが多摩川をきれいにしてきた経験は、さまざまな環境を持続可能にしていくためのモデルとして、今後さらに幅広く活かしていくべきものと考えています。

「財団だより 多摩川」 タイトルリスト

「財団だより 多摩川」は創刊号から最終号（165号）まで東急財団ホームページでご覧いただけます。
<https://foundation.tokyu.co.jp/environment/scene>

年	号数	表紙タイトル・巻頭写真	年	号数	表紙タイトル・巻頭写真
1979	創刊号	(1) 川と自然	1988	第37号	(8) 多摩川の用水
	第2号	(2) 川と日本人		第38号	(9) 多摩川の渡し
	第3号	(3) 川の自然性		第39号	(10) 多摩川の土地利用
	第4号	(4) 川が消されてゆく！		第40号	(11) 多摩川の湧水
1980	第5号	(5) 下水道と水循環	1989	第41号	(12) 多摩川でのレクリエーション
	第6号	(6) 「夢想家の日」		第42号	(13) 夏の風物・伝統漁法実演会
	第7号	(7) 多摩のむかし話（河童の証文－青梅市）		第43号	(14) 秋の風物・鳴く虫を聞く ～河川環境学習の中で～
	第8号	(8) 玉川上水と江戸西郊の開発		第44号	(15) 塞の神（どんど焼き）
1981	第9号	(1) 多摩の語源	1990	第45号	(1) サケの放流会
	第10号	(2) 多摩の語源		第46号	(2) 火のある風景
	第11号	(3) 多摩の語源		第47号	(3) アウトドア・レクリエーション
	第12号	(4) 多摩の語源		第48号	(4) 河川敷内水質浄化施設
1982	第13号	(5) 多摩の語源	1991	第49号	(5) 橋の化粧直し
	第14号	(6) 多摩の語源		第50号	(6) 釣り
	第15号	(7) 多摩の語源		第51号	(7) 河川環境整備事業
	第16号	(8) 多摩の語源		第52号	(8) 洪水のつめ跡
1983	第17号	(1) 多摩川のいかだ師	1992	第53号	(9) 玉川上水の冬枯れ
	第18号	(2) 青梅杉		第54号	(10) 多自然型川づくりモデル事業
	第19号	(3) 奥多摩の石灰		第55号	(11) 伝統的河川工法
	第20号	(4) 二つの化石		第56号	(12) 羽村堰の年間通水
1984	第21号	(5) シルク・ロード	1993	第57号	(13) 平井川の多自然型河川工法
	第22号	(6) 五ノ神まいまいず井戸		第58号	(14) 仙川のモダン橋
	第23号	(7) 野火止用水		第59号	(15) 日野の生きものの棲む水路づくり
	第24号	(8) 大国魂神社		第60号	(16) 多摩川のワンド
1985	第25号	(9) 獅子舞 (主に八王子市、青梅市、奥多摩の各神社)	1994	第61号	(17) 程久保川の生態水路
	第26号	(10) 水止舞（大田区大森東厳正寺）		第62号	(18) 魚ののぼりやすい魚道づくり
	第27号	(11) 鳳凰の舞 (西多摩郡日の出町平井春日神社)		第63号	(19) 水辺の学習会
	第28号	(12) 世田谷ボロ市（世田谷区世田谷）		第64号	(20) カワラノギクの保護
1986	第29号	(13) くらやみ祭（府中市宮町大国魂神社）	1995	第65号	(21) どんど焼き
	第30号	(1) ホタル		第66号	(22) 河原の結婚式
	第31号	(2) トンボ		第67号	(23) 川と地域を結ぶ交流ボート進水式
	第32号	(3) トウキョウサンショウウオ		第68号	(24) 多摩川の水で野点コーヒーを！
1987	第33号	(4) 蝶	1996	第69号	(25) 多摩川で化石探検
	第34号	(5) 奥多摩湖周辺の魚類相について		第70号	(26) 多摩川クリーンエイド
	第35号	(6) 多摩川の橋		第71号	(27) 多摩川週間'96
	第36号	(7) 多摩川の堰		第72号	(28) 親水公園、親水緑道
1988	第37号	(8) 多摩川の用水	1997	第73号	(29) ウォークラリー
	第38号	(9) 多摩川の渡し		第74号	(30) 残堀川の水流復活
	第39号	(10) 多摩川の土地利用		第75号	(31) 夏休み「多摩川教室」
	第40号	(11) 多摩川の湧水		第76号	(32) 住民参加の公園づくり
1989	第41号	(12) 多摩川でのレクリエーション	1998	第77号	(33) 甦れ！四ヶ領用水
	第42号	(13) 夏の風物・伝統漁法実演会		第78号	(34) 多摩川クリーンエイド
	第43号	(14) 秋の風物・鳴く虫を聞く ～河川環境学習の中で～		第79号	(35) いかだレース
	第44号	(15) 塞の神（どんど焼き）		第80号	(36) 川は人を癒す

〔創刊時はモノクロで発行〕



年	号数	表紙タイトル・巻頭写真
1999	第81号	(37) 新しい橋の誕生
	第82号	(38) ニヶ領用水「宿河原堰」改築竣工
	第83号	(39) 夏休み「多摩川教室」
	第84号	(40) リバーサイドウォーク
2000	第85号	(41) 多摩川の源流を訪ねる
	第86号	(42) 堤の桜を植える
	第87号	(43) 多摩川水上バス
	第88号	(44) 多摩川の源流域と下流域との交流
2001	第89号	(45) 多摩川を歩き、語る
	第90号	(46) 多摩川水道橋の開通
	第91号	(47) 花火大会
	第92号	(48) ワイルドフラワー
2002	第93号	(49) ユリカモメ
	第94号	(50) 運動場
	第95号	(51) 多摩川遡上アユ
	第96号	(52) 自然観察会
2003	第97号	(53) 多摩川の「渡し」
	第98号	(54) 川下り
	第99号	(55) 水辺の楽校
	第100号	(56) カワラノギク
2004	第101号	(57) 湧水
	第102号	多摩川台公園
	第103号	二子玉川 兵庫島
	第104号	多摩川の河口
		
		[102号よりカラー化されました]
2005	第105号	多摩大橋付近の河原
	第106号	玉川上水
	第107号	御岳渓谷
	第108号	秋川渓谷
2006	第109号	奥多摩湖
	第110号	コサギとベニシジミ
	第111号	アキアカネとヒガンバナ
	第112号	ユリカモメとヨシ
2007	第113号	セイヨウカラシナとカワセミ
	第114号	キンランとクワカミキリ
	第115号	リンドウとトノサマバッタ
	第116号	カワラノギクとサワガニ
2008	第117号	カタクリとヒキガエル
	第118号	ニヶ領用水
	第119号	等々力渓谷
	第120号	鳩の巣渓谷
2009	第121号	粕江の五本松
	第122号	宿河原堰
	第123号	高津せせらぎ公園
	第124号	多摩川原橋の富士

年	号数	表紙タイトル・巻頭写真
2010	第125号	羽村取水堰
	第126号	調布堰と黒松の林
	第127号	数馬峡
	第128号	丸子橋付近
2011	第129号	吉野梅郷と吉野峡
	第130号	染地の多摩川
	第131号	上河原堰
	第132号	大栗川合流点付近
2012	第133号	吉野梅郷
	第134号	大丸の堰
	第135号	是政の多摩川
	第136号	府中の五本松
2013	第137号	浅川平山橋付近
	第138号	浅川合流点周辺
	第139号	六郷 多摩川緑地
	第140号	拝島橋
2014	第141号	睦橋付近
	第142号	五日市線と桜堤
	第143号	多摩川原橋付近からの富士の冠雪
2015	第144号	多摩大橋付近
	第145号	御岳渓谷
	第146号	秋川
2016	第147号	丸子橋付近
	第148号	多摩川源流 水干
	第149号	多摩川源流 一之瀬川
2017	第150号	多摩川源流 柳沢川
	第151号	多摩川源流 小菅川
	第152号	多摩川源流 峰谷川
2018	第153号	多摩川源流 神戸川
	第154号	多摩川改修 100年特集号
	第155号	多摩川改修 100年特集号
	第156号	多摩川改修 100年特集号
2019	第157号	多摩川改修 100年特集号
	第158号	東急財団発足記念号
	第159号	秋鮎と野鳥
	第160号	猛禽
2020	第161号	カワセミ
	第162号	アマサギ
	第163号	ユリカモメ
	第164号	ヨシガモ
2021	第165号	多摩川中流域のシギ類
		

[42年間に亘り165号発行しました]

多摩川散歩

多摩川源流大学から



多摩川源流大学事務局
NPO法人多摩源流こすげ事務局
東京農業大学非常勤講師

石坂 真悟

14年間の活動に一区切り

小菅村と東京農業大学が開催してきた「多摩川源流大学」は、令和3年3月をもって大学での講座を終了します。くしくも、この財団だよりに初めて寄稿させて頂いた第143号（平成26年12月）には「もうすぐ10年！多摩川源流大学」というテーマで、源流大学で何が学べるのか、どの様な活動をしているのか、都内や村内で行う源流大学のイベント等の情報を紹介していました。源流大学の開始から14年間で約400回近い実習を行い、累計2万人の学生を小菅村へ入れることができました。

源流大学の誕生初期に受講していた学生は、もう30歳ちかくなりになり全国の地元の地域や職場、家業を継ぐなど奮闘していることを、時々連絡やSNSで見かけるようになり、こちらも励まされております。



地域で学ぶ大学生

新たなステージへ

令和3年度からは社会人も含めた「地域や源流の文化や知恵を実践的に学ぶ場」として再スタートいたします。昨年度は、コロナ禍で大学生の受入れが思うように進まなくなりましたが、引き続き大学連携として大学生の受入れは継続しつつ、一般の方にも参加受講できる形として準備を進めております。ぜひ皆様にも共に参加し学びながら小菅村に残る「生きた知恵を次世代へ」繋ぐことに力をお貸しいただければと思います。



松姫トンネル開通

平成26年から小菅村を振返る

ちょうど143号を執筆しているころ、村民が長年待ち望んだ大月市と村を結ぶ全長3キロの「松姫トンネル」が開通しました。開通以前は、青梅方面へ1時間かけて買い物に行くのが当たり前だったり、大雪や台風の度に「陸の孤島」になったりしていましたが、開通後は、道路状況がよくなり災害に強くなり、買い物も最寄りのスーパーまで35分と村の生活は一変しました。



これからは美味しい野菜を作ります

また、翌年の平成27年3月には「道の駅こすげ」がオープンし、松姫トンネルを利用した観光客が大勢来村するようになり、来村観光客はV字回復するようになりました。

その後も、源流親子留学や地方創生事業を活用し様々な施策（タイニーハウスなど）、ビール工場、古民家ホテルの開業などにより80名ほど移住が増えるなど、大きく村の環境が変わってきました。

これからも小菅村は、地域の文化や雰囲気を継承しつつ、これから日本が直面する難題を、皆様と共に知恵を出し合い、課題解決に挑んでいければと思っています。そしてまた、小菅村でお会いできることを楽しみにしています。

多摩川に学ぶ

次世代につなぐ多摩川への想い



NPO 法人砧・多摩川あそび村

理事長 上原 幸子

人の手によって自然再生を果たした奇跡の川

1960年代に水質汚濁が進み死の川となった多摩川。1973年に始まった環境活動が市民団体「ラブリバー多摩川を愛する会」となり、「多摩川に恩返しをしたい」と設立されたとうきゅう環境浄化財団など企業や行政との連携が進み、1993年からは国際ボランティア学生協会 IVUSA が22年間「ラブリバー多摩川清掃」を共催してきました。私たちは子どもの遊びブース協力をさせていただいたりしました。

2020年11月23日、IVUSAの学生たちが密にならない全国清掃活動のゴールとして「ラブリバー多摩川清掃」を企画し、何年ぶりかで関係者など有志で清掃を行いました。かつての学生がお子さんを連れて参加し、「IVUSAが継続していれば第〇〇代IVUSAになります」と、我が子が大学生になった年を想定して紹介してくれました。「ラブリバー多摩川を愛する会」の西尾さんと木本さんから当時のお話をお聞きしながらの清掃は、多摩川への想いを次世代につなげていく象徴のように思える時間でした。

現在IVUSAの学生たちは、私たちの遊び場活動にも日常的に協力してくれています。2019年の台風後の復旧整備も手伝ってくれました。下水道の整備できれいになった今があるからこそ可能になった川あそび



2020年11月23日「ラブリバー多摩川清掃」
1日だけの復活

ですが、この活動も様々な歴史の積み重ねの上にあると、次世代に伝えていく大切さを改めて感じました。

次世代を育てるとのこと

コロナがきっかけで、スポーツや子どもとの土手すべりなど目的を持って訪れる人が増えた多摩川ですが、五感を研ぎ澄ます要素が豊富で気分転換ができる場と感じる人も少なくありません。頭の中の空き時間をあえて作ることで、足元の自然や小さな生きものに心が開くなど、漫然と見ていたことへの気づきも生まれます。スマホでの検索もその場ですぐできる時代、楽しみ方は以前より広がっていると思います。

核家族が増え、ネット検索に頼って子育てをしている人も少なくありません。自分の人生の焼き直しとも言えるのがこの「子育て」という時間です。今更と思えることへの気づきと、子どもと同じ感動を分かち合える場として、多摩川を選んで欲しいと思っています。シマドジョウが手網に入った時の嬉しさ、カワセミが飛んだ時の鮮やかな色、うなぎを捕まえ掴んだ感触、遊び場づくりの達成感、子どもの頃の体験は大人になっても忘れることはありません。大人でありながら、私自身がワクワク感を味わって来ました。この機会に、多摩川好きが増えて欲しいと切に思います。



体ごと多摩川を楽しむ川あそび

高々20数年ではありますが、子どもと多摩川に関わってきました。流域に住むただの多摩川好きの母親に、貴重な出会いと学びをもたらしてくださった多摩川流域の先輩方、地域と行政の皆さまに改めて感謝申し上げます。これからも楽しい自然体験を通して、多摩川を大切に思う心を育てていきたいと思っています。

3年間「多摩川に学ぶ」を担当させていただきました。素人目線の私に、このような貴重な機会をくださった財団の皆さま。本当にありがとうございました。



「多摩川緊急治水対策プロジェクト」として 河道の土砂掘削工事・堤防整備等を進めています。

令和元年東日本台風（台風第19号）において甚大な被害が発生した多摩川流域における今後の治水対策の方向性として、関係機関が連携し、令和2年1月に『多摩川緊急治水対策プロジェクト』をとりまとめました。本プロジェクトでは、3つの取り組み「①被害の軽減に向けた治水対策の推進（河川における対策）」「②地域が連携した浸水被害軽減対策の推進（流域における対策）」「③減災に向けたさらなる取組の推進（ソフト施策）」を実施していくことで、「社会経済被害の最小化」を目指しています。

国土交通省京浜河川事務所では、その中の「①被害の軽減に向けた治水対策の推進」の一環として、現在災害復旧工事、河道の土砂掘削工事及び堤防整備等を進めています。

災害復旧工事は、被害を受けた低水護岸、河岸等を、再び被害を受けないようにするための工事で、多摩川では全20箇所のうち現在3箇所が完了し、残りの17箇所もまもなく完了する見込みとなっています。

河道の土砂掘削工事は、多摩川では現在3つの工事が同時に進んでいるところです。

堤防整備は、令和元年東日本台風において氾濫が発生した世田谷区玉川地区で工事に着手したところです。



災害復旧完了（堤防復旧）



河道の土砂掘削中（陸上から）



災害復旧実施中（護岸ブロック設置）



河道の土砂掘削中（水上から）

今後は洪水の流下を阻害している大丸用水堰の改築も含め、工事を進め、令和元年東日本台風と同規模の洪水に対して多摩川からの越水等の防止を図ってまいります。

近隣住民の皆さまには何かとご不便をおかけしますが、引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。

『多摩川緊急治水対策プロジェクト』：https://www.ktr.mlit.go.jp/keihin/keihin_index134.html

京浜河川事務所ではFacebookを公開しています！

京浜河川事務所の取り組みや 所管する多摩川、鶴見川、相模川、西湘海岸、
沖ノ鳥島に関する情報を、みなさんに分かりやすく情報発信していきます

<https://www.facebook.com/keihin.river.mlit/>



インフォメ／多摩川

多摩川流域他の各種団体等の3月から6月に開催される環境活動に関する
主な行事・イベント情報を紹介いたします。

自然災害や感染症拡大防止、その他やむをえない事情により
中止・延期または内容が変更となる場合があります。
各団体のホームページ等で、必ず事前にご確認をお願いいたします。

美しい多摩川フォーラム

■美しい多摩川フォーラム（3月～6月）の事業予定（事業別）

1. 第14回多摩川一斉水質調査（6月6日：青梅信用金庫本店）

■お問い合わせ先

美しい多摩川フォーラム事務局（青梅信用金庫 地域貢献部内）

担当：及川 / 木村 / 鈴木

TEL 0428-24-5632 FAX 0428-24-4650

E-mail forum@tama-river.jp URL <https://www.tamagawaforum.org/>

一般財団法人 世田谷トラストまちづくり

■世田谷トラストまちづくりビジターセンター ～世田谷区成城 4-29-1(野川沿い)

*改修工事終了による再開館のお知らせ

3月下旬より再開館（予定）

※詳しい日程は財団ホームページ等をご覧ください。下記へお問合せください。

■申込・お問い合わせ先

（一財）世田谷トラストまちづくり トラストみどり課

TEL 03-6379-1624 FAX 03-6379-4233

〒156-0043 世田谷区松原 6-3-5 財団 HP <https://www.setagayatm.or.jp/>

みずとみどり研究会

■ 第 18 回身近な水環境の全国一斉調査のお知らせ

日 時 2021 年 6 月 6 日 (日) ※世界環境デー (毎年 6 月 5 日)

測定項目 気温、水温、COD、その他 (任意)

測定方法 取扱説明書にもとづき、調査キットで測定

(参加申込者に 2021 年 4 月末～5 月頃に配布予定)

参加申込と締切り 同封の申し込み用紙に必要事項をご記入の上、下記の事務局

みずとみどり研究会に、**2021 年 3 月 10 日 (水)** までに必ずご送付下さい。

なお、ご記入いただいた個人情報とは今回の調査に関する連絡以外に、ご本人の許可なく使用いたしません。

申込受付 参加申込された団体はホームページ等で公表させていただきます。

■ Twitter をはじめました。

アカウント名は「身近な水環境の全国一斉調査」です。

日々の一斉調査の進捗や全国の参加者と事務局とのやり取りなどもつぶやく予定です。

フォローよろしくお祈いします。



コロナ禍で外出も水質調査も厳しい状況です。早く収束して子どもたちと一緒に調査ができる日を祈念します。

写真：2018 年 浅川水辺の楽校での水質調査風景

■ 申込み・お問合せ先

事務局 全国水環境マップ実行委員会

みずとみどり研究会気付

〒185-0021 東京都国分寺市南町 2-1-28 飯塚ビル 202

TEL/FAX 042-327-3169 E-mail : mizutomidoriken@ybb.ne.jp

URL <http://www.japan-mizumap.org>

むさしの化石塾から一部業務停止のご案内とお知らせ

■コロナウイルス予防対策のお知らせ

むさしの化石塾では室内調べ学習会を通じた地域自然史の普及活動を毎月定期的に長年にわたって実施してきましたが、長引くコロナウイルスの予防対策の観点から、むさしの化石塾の普及活動事業をしばらく中止にいたします。今後は野外体験会のみを限定した形で実施する予定です。関係各位の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

個人的な問い合わせ、web やメール等によるやり取りは継続いたしますので、今まで通り実施いたします。どうぞ宜しくお願いいたします。

むさしの化石塾室内教室閉鎖に伴う収蔵化石に関する問い合わせと閲覧方法

調査・研究してきたむさしの化石塾収蔵化石で多摩川産の化石標本の一部は、昭島市教育福祉総合センター「アキシマエンス」内の昭島市郷土資料室に移管・出展し、一部を公開展示しております。是非、こちらに足を運んで頂きご覧ください。調べ学習の継続等にご活用頂ければ幸いです。



アキシマエンス昭島市郷土資料室 化石・自然史相談窓口のお知らせ

むさしの化石塾の収蔵化石の内覧と合わせて化石に関する質問や相談を毎月第3土曜日の午後の時間帯に限定して、昭島市郷土資料室でむさしの化石塾の福嶋が対応します。

アキシマエンス郷土資料室へお越しの際は、事前にむさしの化石塾 福嶋まで（下記 MAIL 宛）お問い合わせ下さい。日程を調整させていただきます。問い合わせ先：(Email: mkj@sweet.ocn.ne.jp)



アキシマクジラ発見 60 周年アキシマクジラとむさしの化石塾の化石を見に行こう !!

アキシマクジラの発見から 60 年の今年、今まで研究中の為、群馬県立自然史博物館に収蔵されていたアキシマクジラのすべての化石標本が、地元昭島市に里帰りします!! その保管先の施設は昨年昭島市にオープンした「アキシマエンス」昭島市教育福祉総合センターの中に保管されます。その玄関口のエントランスのクジラホールには天井に吊るされた全長 13.5 m のアキシマクジラ全身骨格復元模型が出迎えてくれます。多摩川で発見されたクジラ化石を前面



に出した図書館と一体型の郷土資料室を備えた素晴らしい公共施設です。館内には、アキシマクジラ化石標本の他、貝化石や植物化石、アケボノゾウやオオカミ、シフゾウなどの哺乳類化石など、当時生息していた古生物化石群を一堂に公開しております。国立科学博物館も真似できない内容の充実です。アキシマエンス郷土資料室に足を運んで頂き生物多様性の学習に是非ご利用ください。

●アキシマエンス交通アクセス

開館時間 10 時～ 20 時 休館日毎週月曜日
JR 昭島駅北口徒歩 10 分
JR 中神駅北口徒歩 10 分

●利用案内

〒196-0012 東京都昭島市つつじが丘 3-3-15
TEL 042-543-1523 FAX 042-542-8002
<https://www.akishimaensis.jp/>

■お問い合わせ先

GeoWonder 企画 むさしの化石塾

〒208-0003 東京都武蔵村山市中央 3-20-7 代表 福嶋 徹 042-567-1095 (FAX 同)

NPO 法人 砧・多摩川あそび村

子どもたちに豊かな自然体験と安心できる居場所を

■ 「きぬたまあそび村」

広い空の下、多摩川の水と緑を感じてのびのび遊べる自然遊び場です。「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーに世田谷区の委託事業として地域で運営し、誰でも無料で遊べます。外遊びプレーワーカーが常駐し、子どもが一人でも遊びに来られる屋外拠点となっています。



開園日：毎週4日／月・水・金・土 10時30分～17時（3月は16時半）

開園場所：多摩川河川敷二子緑地せたがや水辺の楽校はらっぱ ※荒天時中止

アクセス：東急田園都市線・大井町線「二子玉川駅」徒歩20分

東急バス 砧本村行き バス停：都市大グラウンド前下車1分

成城学園前駅行き バス停：砧南中学校前下車4分

■ 地域参加型でつくる現在進行形の原っぱ遊び場

秘密基地づくりがしたいと始まったツリーハウスは4世代目。きぬたまの子どもたちと多摩川源流の森で間伐体験をし、樹皮をはぎ防腐剤を塗り4ヶ月かけて再建しました。旧堤防に囲まれた好立地でもあり、区や東急さんの助成により、かまどベンチ、遊べる井戸、トンボ池など、地域参加型でつくってきた遊び場は、台風被災やコロナ禍の喪失感の中、地域が心を寄せ合える大切な存在となりました。



平日誰もいない河川敷を安心して遊べる場にと、1999年に子育て中の親たちが始めた遊び場です。地元町会・鎌田南睦会役員の応援もあり「多摩川水系河川整備計画」を機に地域と行政で協議会を立ち上げ、小学校パパーズや学童、児童館や保育園が協働で場の利用と手入れを行っています。

★きぬたまあそび村の野外遊び

自然遊び／野遊び、虫とり、野外料理（休止中）
 工具や火を使う遊び／木工、竹工作、鍛冶屋遊び
 川遊び／ガサガサ、生きもの観察、釣り
 ロープ遊具、土手すべり、木登り、ベイゴマ、
 集団遊び



詳細はブログ、Facebook、インスタグラムなどでご確認下さい。

■ お問い合わせ先

NPO 法人 砧・多摩川あそび村

〒157-0077 世田谷区鎌田 1-19-1-101 きぬたまの家

TEL 03-6447-9931

MAIL info@kinutama.com HP <https://kinutama.com/>

ブログ <http://asobimura.exblog.jp/>



きぬたまあそび村

NPO 法人多摩川エコミュージアム

新型コロナウイルス感染発生状況、多摩川の水量・水温・濁り状況などで開催・中止となります。
ご参加予定の皆さまは問い合わせ先へご確認をお願いいたします。

■ 第16回 多摩川桜のコンサート

日 時 2021年3月27日(土)
11:00～15:00 無料
場 所 JR南武線/小田急線登戸駅下車徒歩8分
ニヶ領せせらぎ館前広場
内 容 ニヶ領用水沿いの桜の前でのコンサート
和太鼓・合唱・声楽など
主 催 川崎市、NPO 法人多摩川エコミュージアム (写真は2019年4月6日)



■ 2021年度上期 各イベント予定

5月～9月 ラフティングボート
体験乗船会
7月～8月 河童の川流れ体験
体験教室
9月 夕涼みコンサート



ラフティングボート



体験教室

■ 毎月開催

リトミック教室

日 時 第一火曜 10:30
当面は申し込み制人数制限有

クリーンアップたま

日 時 第一土曜 9:00
多摩川河川敷・ニヶ領用水などで活動



クリーンアップ



リトミック

■ かわさき水辺の楽校 (毎月参加者を募集して開催しています)

お問い合わせ先 水辺の楽校メールアドレス e-mail:noborito.mizube@gmail.com



5月 魚釣り



6月 干潟観察会



7月 河童の川流れ



8月 湧水で小魚観察



9月 魚つかみ

■ お問い合わせ先

ニヶ領せせらぎ館 (にかりょうせせらぎかん)

【JR南武線/小田急線登戸駅下車徒歩8分】

TEL/FAX: 044-900-8386 URL: <http://www.seseragikan.com/>

住 所: 神奈川県川崎市多摩区宿河原 1-5-1

開館時間: 10:00～16:00 5月～8月 土日祝は9:00～16:00

休 館 日: 毎週月曜日(祝日の場合はその翌日) 及び第一・第三水曜日



せたがや水辺の楽校

■ 2021 年度開校式

2021 年 4 月 18 日（日） 11 時～ 14 時 30 分

「せたがや水辺の楽校」は毎年 4 月第 3 日曜日にその年度の開校式を行っています。

今年は 16 回目。開校式は、いつもセレモニーを行っていますが、コロナウィルスの動向もうかがいながら、内容を考えていきたいと思ひます。コロナウィルスに私たちは翻弄されていますが、自然の生きものたちはそれぞれ変わらず暮らしているようですので、状況が許せば、子どもたちと『お魚のすみかづくり』をやりたいと思ひます。

自然の営みと、子どもたちのあそびと学びが止まりませんように。

開催についての詳細は、開催日近くになりましたら、ホームページでご確認ください。



■ あそびの日（第 1 日曜日 10 時～ 12 時）

▶ 集合受付場所：せたがや水辺の楽校原っぱ
：野川ベース

毎月第 1 日曜日に開催します。5 月～ 10 月は水辺ガサガサです。

開催予定：5 月 2 日（日） / 6 月 6 日（日）

※受付は 2 か所で行っています。水辺ガサガサは、野川ベースで行います。

※開催日近くになりましたら、詳細をホームページでご確認ください。



■ お問い合わせ先

NPO 法人せたがや水辺デザインネットワーク

Mail info@mizubedesign.org

TEL 080-3007-5413（村上）

HP <https://mizubedesign.org>

FB <https://www.facebook.com/mizubedesign/>

インスタグラム始めました [setagaya_mizube](https://www.instagram.com/setagaya_mizube)



～～多摩川と崖線の森の街で 一人ひとりが大切にされる毎日を～～

City Nature Challenge 2021 - Tokyo



スマホで街の生き物を観察しよう

世界の都市で植物や動物を観察・撮影・投稿する“City Nature Challenge 2021”を開催！

参加無料
自由参加

観察日時：2021. 4.30 - 5.3
同定日時：2021. 5.4 - 5.9

スケジュール

参加前 iNaturalistのインストール
4/30 - 5/3 全世界で開催！写真を投稿！
5/4 - 5/9 世界中の参加者と専門家が同定
5/10 結果発表

観察

使用ツール iNaturalistアプリ(スマホ対応)
対象地域 島嶼を除く東京都全域
対象種 すべての野外の生物種
(種名が分からなくてもOK)

みんなで参加するイベントも開催予定

場所：東京都市大学二子玉川夢キャンパス
開催日：5/1(土) (雨天予備日：5/2(日))

要申込・参加無料

イベントの詳細や申込も右の詳細をご覧ください



詳細はこちら

左記のQRコード(URL)に詳細な
情報やイベント情報を掲載して
います。

<http://bda.or.jp/wp/?p=1132>

【CNC2021プロジェクト企画】

【CNC2021-Tokyo主催団体】

【協賛団体】

カリフォルニア科学アカデミー・ロサンゼルス自然史博物館 東京都市大学 / (一社) 生物多様性アカデミー NPO法人せたがや水辺デザインネットワーク

【新型コロナウイルスへの対応について】

二子玉川夢キャンパスでのイベントの開催可否については、東京都市大学の基準に基づいて決定し、上記ウェブサイト等でお知らせします。最新の情報を確認していただきますようお願いいたします。

財団からのお知らせ

1 研究助成事業

2020年度の調査・試験研究費助成対象として、新規研究17件（学術研究9件、一般研究8件）および2019年度からの継続研究12件（学術研究10件、一般研究2件）の計29件に助成金を贈呈しました。

なお7月に予定をしておりました「研究助成金贈呈式」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しました。ここに全助成研究をご紹介します。

また2019年度までに完了した助成研究に関する成果報告書の概要を掲載します。

（所属・役職は採択当時のものです）

新規 学術研究 助成金受領者



南 佳典

玉川大学 農学部 教授

- 研究期間：2年
- 助成金額：405,344円

研究課題

多摩川河川敷におけるテントウムシ類の季節的動態およびエサ資源生物の分布とそれらに関わる緑地の重要性

都市近郊における野生生物の生息環境は減少しつつあり、外来種の侵入リスクが高くなっている。緑地は生物が餌資源を確保するために重要で、とくに河川敷の緑地は非常に多様性が高く、河川敷の緑地を保全することは今回対象とするテントウムシの多様性を保つことにつながる。今回の研究では、テントウムシの環境適応性や、外来種と在来種の相互作用を検討することを目的とする。

多摩川河川敷に分布する緑地に調査区を設定し、1ヵ月に1回程度の頻度でスウィーピング法によってテントウムシを捕獲する。また同時に捕獲されるアブラムシ類を記録する。周辺の森林や生産緑地などにおいても同様な調査を行う。得られたテントウムシ類から外来種と在来種を選び飼育試験を行う。

期待される結果は、テントウムシ類の多様性、外来種の存在と在来種との競合、植物組成の変化に伴うテントウムシ類の変化、などである。テントウムシ類における知見は少なく、上述の情報は重要である。また、議論の中で「生物多様性の維持と防災」とのバランスをどうとるかについても言及する。



寺原 猛

東京海洋大学
海洋生物資源学部門 助教

- 研究期間：2年
- 助成金額：610,000円

研究課題

多摩川河口域の微生物資源、希少放線菌の多様性保全および新種の分離に向けた取り組み

放線菌は生理活性物質の主要な生産菌であることが知られている。土壌などの環境試料から、放線菌を非選択的な方法で分離すると、*Streptomyces*属が優占的に分離されることが一般的である。そのため、希少放線菌（*non-Streptomyces*属）の分離には、何らかの選択的分離法を必要とすることが多い。多摩川をはじめとする東京湾に流入する河川の河口域の底泥から、種々の分離法によって希少放線菌に関する研究も報告されているが、どのような希少放線菌がどのくらい存在するのかは調べられていない。

本研究では、多摩川の河口域などで堆積物を採取し、多摩川河口域における希少放線菌の多様性を調べるとともに、それらを保全・活用するために希少放線菌の新種の分離に向けた取り組みを行う。

これにより、多摩川河口域の微生物資源、希少放線菌の多様性や分離に関して、新たな基礎的知見が得られるとともに、多摩川の河口域も含めた生態系の豊かさ・重要性について改めて認識されることが期待される。



柳川 亜季

明星大学 理工学部 助教

- 研究期間：1年
- 助成金額：631,379円

研究課題

2019-2020年の調査を通じた台風19号による多摩川の礫河原再生が河川敷の粒径組成、植生、陸生の昆虫に及ぼした影響評価

研究の目的は、多摩川の大規模出水による礫河原の形成が、河川敷の植物群落の在来種の比率にどのように変化するか、それによって、河川敷の陸生昆虫などに変化があるのか検証することである。

都市河川の河川敷の多くには外来植物が繁茂し、景観の維持管理が課題となっている。これは人為的な水位管理による礫河原の消失に一つの原因があるとされる。そこで、本研究では、2019年の台風19号による礫河原の形成により、河川敷の植生や昆虫数がどの程度変化するかを2020年に調査し、2019年に取得した生態調査データと比較し、明らかにする。そして、大規模な出水により形成された礫河原は景観回復の場となるのか、植生群落構造から検証する。

気候変動により、河川の水位の上昇が各地で予測されているが、本研究の成果は、外来種の繁茂する河川敷の景観が今後、従来の礫河原に回復する可能性や、そのプロセスを示すことができる、大変重要なものであると考える。公表の方法は、生態学会の全国大会での発表および、論文投稿を予定している。



甲斐 貴光

明治大学 黒川農場
特任講師

- 研究期間：1年
- 助成金額：2,000,000円

研究課題

環境保全型農法による土壌微生物群集が多摩川梨の品質と収量に与える土壌の好条件の解明

ナシ栽培は病害虫防除のため、化学肥料や化学合成農薬が利用されている。化学肥料の投入は、作物成長に必要な栄養分のみを土壌中に補給することができ、しかも化学肥料の多くは、水に溶けやすく速効性があるため、効果的な土壌への栄養供給が可能である。そのため、農地の単位あたりの収量を大幅に増大させる等、一定の成果がもたらされている。しかしながらその反面、化学肥料の使用は過剰投与になりやすく、土壌団粒の減少、地下水汚染、土壌微生物の減少といった自然環境や生態系の破壊等の問題を引き起こしている。本研究の目的は、ナシ栽培において、環境保全型農法により高品質と高収量を維持し、持続可能な循環型農業を実現するために、土壌微生物群集が多摩川梨の品質と収量に与える土壌の好条件を解明することである。

本研究では、多摩川梨と総称される地域のナシ園を調査し、環境保全型農法と慣行農法の土壌肥沃度を比較検討する。これらの研究成果については、市役所のホームページや広報誌に情報発信し、市民に持続可能な環境保全型農業の重要性を啓発する。



山崎 久登

東京都立砂川高等学校
通信制課程・教諭

- 研究期間：2年
- 助成金額：51,780円

研究課題

江戸時代多摩川の生態系と鷹場

本研究は、江戸時代の多摩川流域を対象とし、鷹場が地域環境や生態系にどのような影響を与えていたのかを分析するものである。鷹場とは、本来は「鷹狩りを行う場」を意味するが、江戸時代の鷹場には河川や野山・さらに村までも含まれる。これは鷹狩りの獲物を確保するために、広い領域で環境保全（魚・鳥殺生禁止など）を行う必要があったからだ。多摩川流域は、徳川将軍家や尾張藩の鷹場、さらに幕府の鷹の訓練場などに指定されていたのである。こうした鷹場と地域環境の関係を考えることが現在の近世史研究の課題となっている。

本研究では、農民の日記や諸記録（御用留など）を分析することにより、①江戸時代前期から後期にかけて多摩川流域において生態系がどのように変化をしているのか、②その中で鷹場が環境因子としてどう作用していたのかを分析する。

本研究の成果は、近世史研究だけでなく、現在の多摩川の生態系を考えていく上でも有効なデータを提供できるものとする。最終年度に研究報告会を実施し、広くその成果を還元していきたい。



中島 保寿

東京都市大学
知識工学部自然科学科
准教授

- 研究期間：2年
- 助成金額：1,992,500円

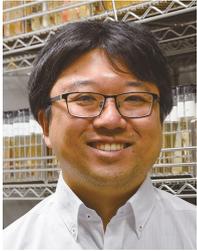
研究課題

レーザースキャナを用いた多摩川流域上総層群化石群の3次元構造データ保存法の確立

多摩川河床には、約300万年前～約120万年前の地層「上総層群」が露出しており、動物化石や足跡化石の密集産状は当時の環境や生物相を理解する上で重要な研究対象となっている。しかし上総層群の岩質は軟弱で、夏期の増水などによって化石産状は容易に失われてしまうという難題を抱えている。

そこで本研究では2年の研究期間のうち冬季の減水時に多摩川河床に露出する化石密集層の産状を建築用の3Dレーザースキャナを使用して広域でデータ採取を行ない、3次元構築を試みる。これにより、化石密集層の立体的分布および風化侵食の過程を明らかにする。

この化石層の3次元データおよび、標本・露頭レベルで解析が行われてきた化石研究の成果を統合することで、古生態系の変遷を4次的に理解することが出来る。これらの成果は、地層立体断面模型として3D出力し、東京都市大学夢キャンパスにおいて展示解説を行うことで、一般市民に向けた教育普及に役立てる。



酒井 一成

北里大学 大村智記念研究所
微生物応用科学研究室
特別研究員

- 研究期間：2年
- 助成金額：1,500,000円

研究課題

多摩川流域に生息する水生植物から分離した糸状菌を用いた抗冷水病活性物質の探索

アユの感染症の一種である冷水病原因菌の *Flavobacterium psychrophilum* に対して効果を示す化合物を多摩川流域に生息する水生植物から分離した微生物を用いて探索する研究を計画した。本研究目的を達成するために検定菌に対しての抗菌活性化合物の探索例は存在せず、検定菌の評価系の構築を行い、水生植物から糸状菌を分離している例がごくわずかであるため糸状菌分離の検討から始めることとした。

多摩川流域に生育しているホザキノスサモなどの水生植物から糸状菌を分離し、斜面培地で保存する。順次培養抽出物を作成する。構築した *F. psychrophilum* に対する抗菌プレートを作成し、ペーパーディスク法を用いて抗菌活性評価を行う。抗菌活性を示した糸状菌培養液から抗菌活性を指標に化合物の精製を行う。

本研究を日本農芸化学会や菌学会をはじめとする学会で発表し、国際学術誌に投稿をすることで広く本研究を公表することが可能であると考えている。また本研究では化合物精製を行う前に藻類に対して急性毒性評価を行うことで環境に対しても配慮した水産用医薬品の開発ができると考えている。



佐藤 友香

東京医科歯科大学 大学院医
歯学総合研究科 医歯学系専攻
環境社会医歯学講座 医療政策
情報学分野 博士課程

- 研究期間：2年
- 助成金額：856,580円

研究課題

河川攪乱後に出現する先駆種の標本所蔵体制の強化に関する研究
—実施プロセスにおける教育的効果の検討もふまえて—

2019年台風19号で広域に攪乱された多摩川流域を対象に、限られた期間のみ出現するような生物種の標本記録を得ることを目的とする。速やかな調査着手が必要であり、半永久的な記録となる生物標本の採集から収蔵に十分つなげられていない課題がある。また、各博物館における標本収集の意向も、多くの場合は公知ではない。災害の多い我が国においては、同一地域のみならず多拠点での標本所蔵体制を取ることも重要であると考えられるため、その実現可能性も併せて検討したい。

方法として、①多摩川流域で攪乱後1～2年以内にみられた生物種のうち、特に植物と昆虫について上・中・下流域ごとに標本を作製して同定する。②当該種の自然史博物館などにおける標本所蔵状況と収集意向をヒアリングにより明らかにする。

研究終了後は、作製した生物標本の寄贈により、多摩川流域で産した標本の所蔵点数を広域的な観点で増加させる。日本全体として多拠点での標本所蔵体制づくりを目指し、基礎的な情報を各館の状況に配慮した上で集約し、学会発表や目録などで公知とする。



渡邊雄二郎

法政大学 生命科学部 教授

- 研究期間：2年
- 助成金額：350,000円

研究課題

多摩川流域中の窒素・リンの定点分析と植物肥料としての有効利用技術の開発

栄養塩類である窒素とリンは、生活排水や肥料の過剰施肥などにより河川中に流入し、湖沼等閉鎖性水域の富栄養化を引き起こす。そのため、河川中での窒素とリンの挙動を把握すると共に、回収して有効利用する技術が求められる。また開放系である河川は、閉鎖性水域と比較して滞留時間が短く、流量や流速の変動が大きいため、的確に原因を把握するためには継続的な分析調査が必要とされる。

本研究では、月に1回程度の多摩川の窒素とリンの全流域定点調査を行い、窒素とリンの多い地点を環境基準値と比較すると共に、それらの化学形態を把握し、汚染原因を究明する。また多摩川水をゼオライト等吸着材培地に通水して窒素とリンの除去能を評価する。

本研究により、多摩川流域の汚染状況を推定でき、また吸着材培地と植物による自然を模擬した新しい浄化法を確立することができる。得られた成果は、学術誌への投稿、学会発表及び大学ホームページで広く発信するとともに、一般展示会において積極的にアピールする。また小・中学生向けのイベント教材としても利用する。

新規 一般研究 助成金受領者



伊藤 教行

特定非営利活動法人 R.I.La
理事 主任研究員

- 研究期間：2年
- 助成金額：628,140円

研究課題

魚類（オイカワなど）をマーカーとした水再処理センターの排水の影響を受けない多摩川中上流域におけるマイクロプラスチック汚染調査

水再処理センターを有する大規模河川におけるマイクロプラスチック汚染の原因については、水再処理センターから流入する一次マイクロプラスチックであることが推測されていたが、昨年度実施した調査から、多摩川中流域に存在する水再処理センター以降の下流域で採取された検体のオイカワからは、90%以上の確率でマイクロプラスチックが検出され、その汚染の深刻な状況が浮き彫りとなった。そこで本年は水再処理センターの排水の影響を受けず、2019年に調査を実施したエリアよりもさらに上流域において、オイカワなど多摩川で繁殖し、生息している魚類をマーカーとして、昨年度と同様の手法によりこれら検体のマイクロプラスチック汚染調査を実施し、2019年に実施したエリアの調査結果と比較検討を実施することによって、多摩川におけるマイクロプラスチック汚染の全容を解明していくことを目的とする。調査結果は速報値をSNS等で開示すると共に多摩川流域市民学会をはじめ、関連団体のシンポジウムなどで開示していく。この調査により多摩川並びに多摩川が流入する東京湾のマイクロプラスチック汚染防止につながることを期待する。



苗川 博史

東京農業大学 客員教授

- 研究期間：2年
- 助成金額：250,000円

研究課題

コシアカツバメ (*Hirundo daurica*) が多摩川河川敷に分散・拡大した動向と現状を通して多摩川中・下流域の環境および都市化と農耕地の変遷を探る

本研究は、1940年代に神奈川県西部から進出したコシアカツバメが、県央地域もしくは県南地域のルートを経て多摩川流域に分散・拡大した動向と現状を通して、コシアカツバメの多摩川・河川敷利用ならびに多摩川中・下流域環境および都市化と農耕地の変遷を、現地調査と先行研究および地理情報等をもとに、考察することを目的に実施する。

現地調査は、川崎市北部の多摩区・矢野口周辺から南部の川崎区・小島新田周辺に至る約28kmの多摩川流域の河川敷を踏査しながら、コシアカツバメの視認調査を行う。また、神奈川県下のコシアカツバメの初認日および終認日、視認月日・場所・羽数・行動、巣が継続して建造物に残されているかの有無を調査、また県民からの情報を募り、動向と分布を地図上にプロットしていく。

調査から得られた情報・知見をもとに、1940年代以降のコシアカツバメが多摩川流域に進出してきた動向と生息・分散の移り変わりについて、多摩川流域の土地環境の変遷を確かめ、都市化と農耕地との関連を整理していく。



柴田 隆行

多摩川の自然を守る会 代表

- 研究期間：2年
- 助成金額：237,000円

研究課題

台風19号による大増水で全滅した多摩川の河原植物が自然再生するかについての調査・研究

多摩川の河原植物の生育状況について全域悉皆調査を行っているが、2019年10月の台風19号による多摩川大増水で礫河原に生える河原植物はほとんどが流失した。だが過去にもこれに匹敵する大増水が何度かあったが河原植物は自然再生しているので、今後の復活を期待しつつ河原植物の生態を明らかにしたい。

河原植物分布域を中心に悉皆調査を行う。推定値ではなく全個体数を目視で数え、具体的な分布地図を作成する。

調査結果はすべて河川管理者および東京都建設局等に提供し、河川工事の際の環境留意事項として活かされている。数値はホームページや会報で公開するが、稀少種保護のため詳細な分布図等は限定公開とせざるを得ない。



井上 太志

自然観察活動チーム
Wild Lives Watchers 代表

- 研究期間：2年
- 助成金額：298,508円

研究課題

多摩川水系における希少性コウモリ類の生息を探る

多摩川支流である三沢川では、20kHz帯の音声を発するヒナコウモリ、ヤマコウモリ等の絶滅危惧種に指定されているコウモリ類（東京都、神奈川県、環境省）の音声が確認されている。本調査研究では、これらの希少コウモリ類の生息状況を把握するとともに、生息情報を地域自然史として後世に残し、今後の多摩川のコウモリ類に関する啓蒙活動のための基礎情報収集を目的とする。

多摩川支流の三沢川において、録音機器等を用いて、飛来するコウモリ類の音声を取得し飛来状況を記録する。また、記録した音声を精細に分析し、生息する種の推定を行う。

三沢川沿いにねぐら等の存在が想定されることで、今後周辺環境において改変が起こる際、保全の観点からの対応策を提案するための重要な知見となると考えられる。また、東京都や神奈川県をはじめとしたコウモリ類の生息基礎情報としてデータの蓄積及び運用が可能である。

本研究結果は、川崎宙と緑の博物館等に学術論文として投稿することを想定している。



角田 清美

青梅市教育委員会
青梅市文化財保護指導員

- 研究期間：1年
- 助成金額：274,267円

研究課題

浅川流域の陸水学的研究

浅川の流域面積は約156km²で、多摩川流域（約1,240km²）の約13%を占める。多摩川流域は広大で、これまでに地質・地形・河川・地名を主な内容とする、統一的な調査・研究は行われていなかったため、申請者はこれまでに、財団の援助を受け、秋川流域（1983年度）、小河内ダム上流側（1984年度）、ダムから玉川上水羽村取水堰まで（1987年度）、日原川流域（1988年度）に分割して、調査を実施した。今年度は浅川流域において、従来の調査項目に水質を加え、調査を実施する。

調査・研究は、現地調査を中心とする。室内では地形図の読図と収集した各種資料を整理する。調査結果は地質図や、支流流域を単位とした水系図などの主題図を作成する。

今回の調査によって、多摩川流域の上・中流域に位置する多摩地方の、地質・地形（稜線の配列と特徴・地名・渓谷・鍾乳洞など）・河川網と流域の特徴・温泉・山地内の地名などの知識が統一的に得られることになる。



渡辺 仁

特定非営利活動法人
東京生物多様性センター
代表理事

- 研究期間：2年
- 助成金額：550,000円

研究課題

令和元年10月台風第19号による攪乱後の多摩川水系における鳥類の生息状況及び生態の変化に関する調査研究

令和元年台風19号により、多摩川の各地ではん濫被害が出るなど、大きな攪乱が生じた。多摩川は、今まで樹林化や礫河原・草地の減少など、本来の河川性の生物の生息・生育環境が減少してしまう課題があった。本研究では河川性の鳥類に着目し、台風19号の前後で、河川性鳥類の生息状況がどう変化したかを把握し、河川生態系がどう変化したかを明らかにする事を目的とする。

多摩川の河川区域内を対象に、上中下流の代表的な区間において、河川環境に依存する鳥類の分布及び環境の状況を現地調査により把握する。現地調査結果と既往調査結果を比較検討し、台風19号前後の河川性鳥類の生息状況及び生息環境の変化を分析する。

研究結果については、多摩川の基礎情報として蓄積されるとともに、河川環境保全・管理のために河川管理者等へ提言を行い、生物多様性保全への還元・活用を図るものとする。また、成果については、リーフレット等により、関連機関・公共図書館等へ配布する。また、ネットを活用し、広く一般に進捗や成果を公開する予定である。



太刀掛 脩平

東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林動物学研究室修士課程

- 研究期間：2年
- 助成金額：671,550円

研究課題

多摩川上流域のリター堆積における食物網構造とその決定要因の解明

森林溪流では、落葉季になると河床構造の違いによって様々な大きさや形のリター堆積（リターパッチ）が形成される。そして、リターパッチは森林溪流の底生動物群集の食物と住み場所になっている。底生動物は、河川生態系の中で基礎エネルギー資源と魚類などの上位捕食者をつなぐ栄養段階を占めるとともに、物質循環の上でも重要な役割を果たしている。多摩川水系ではそれらの分布に関する研究が多く実施されているが、食物網構造に関する研究は乏しい。従って、本研究では多摩川水系上流部のリターパッチにおける底生動物群集の食物網構造とその決定要因を解明する。

食物網構造を解明するために、秋川支流の矢沢と小坂志川から得たサンプルの安定同位体比を測定する。また、栄養塩濃度や水温条件を変えた飼育実験によって食物連鎖の長さを決定する要因を明らかにする。

これにより、希少底生動物保全に必要な環境整備、富栄養化や温暖化などの環境変動への群集の応答予測、魚類などの河川から得られる資源の持続的利用を行う上で重要な知見をもたらすことが期待できる。



岸本 慧大

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修士課程

- 研究期間：2年
- 助成金額：500,000円

研究課題

都市農業評価のための食料・水・エネルギーネクスモデリング—多摩川流域を対象として

都市農業は、多面的機能の活用に向けて保全と振興が進められる一方、農薬や水資源の利用による環境負荷への懸念がある。既往研究では、多面的機能と環境負荷のトレードオフやシナジーは、複合的指標や空間的特性の観点からは定量的に評価されていない。本研究は、このトレードオフ・シナジーを食料・水・エネルギーの連関によって可視化するとともに、都市農業の実態を地域特性、都市化、歴史の変遷の観点から明らかにすることが目的である。

多摩川流域あるいは東京大都市圏を対象地域として、地域ごとの食料・水・エネルギーについて、灌漑、農薬、園芸栽培などにおけるインプット、農業生産、地下水浸透、残渣などにおけるアウトプットを算出し、多面的機能や環境負荷への影響を可視化する。また、多様な地域や時代に応用し、文化、地形、都市化、社会情勢との結びつきを可視化する。

このように地域ごとや歴史的に可視化されたトレードオフやシナジーは、都市農業の社会生態学的な位置づけの指標であり、地域の状況に応じた都市農業の保全や振興の方針のためのヒントとなる。

継続 学術研究 助成金受領者



亀田 豊

千葉工業大学創造工学部 准教授

- 研究期間：2年
- 助成金額：1,000,000円

研究課題 多摩川流域における水中微細マイクロプラスチック存在調査とシミュレーションモデルを用いた流域内挙動解析



大貫 敏彦

東京工業大学 先端原子力研究所 教授

- 研究期間：2年
- 助成金額：799,000円

研究課題 多摩川水系におけるセミの抜け殻を利用した元素分布の広域調査



新谷 政己

静岡大学工学部 准教授

- 研究期間：2年
- 助成金額：1,000,000円

研究課題 巨大都市を流れる多摩川流域で薬剤耐性遺伝子を伝播しうるプラスミドの同定とその伝播経路の解明



寺田 昭彦

東京農工大学大学院工学研究院 教授

- 研究期間：2年
- 助成金額：1,000,000円

研究課題 多摩川底質の亜酸化窒素消費ポテンシャルの体系的評価：排水処理施設からの放流水の影響



佐々 悠木子

東京農工大学農学研究院 講師

- 研究期間：2年
- 助成金額：1,300,000円

研究課題 多摩川の流域周辺に生息するワカケホンセイインコ (*Psittacula krameri manillensis*) など、野生化した飼い鳥から人に感染する病原体の調査



土肥 真人

一般財団法人エコロジカル・デモクラシー財団 代表理事

- 研究期間：2年
- 助成金額：1,307,000円

研究課題 水の循環と子どもの遊びからみる自然と社会とのつながりとその価値について
—多摩川流域の自然環境保全に向けた流域連携の可能性に向けて—



吉川 朋子

玉川大学農学部 生産農学科 教授

- 研究期間：2年
- 助成金額：192,288円

研究課題 多摩川流域のドジョウ類の分布と生息環境, 及びヒガシシマドジョウの河川内での季節移動と環境利用



二瓶 泰雄

東京理科大学理工学部土木工学科 教授

- 研究期間：2年
- 助成金額：2,000,000円

研究課題 多摩川におけるマイクロプラスチック汚染状況と魚類への影響



田中 正明

四日市大学生物学研究所 所長

- 研究期間：2年
- 助成金額：163,480円

研究課題 多摩川上流域に侵入した大型珪藻外来種の生息状況とその対策に関する研究



吉永 龍起

北里大学海洋生命科学部 准教授

- 研究期間：2年
- 助成金額：1,000,000円

研究課題 多摩川の遺伝資源：固有の魚類個体群とその生態

継続 一般研究 助成金受領者



蓮尾 純子

多摩川鳥類カウントグループ 会長

- 研究期間：2年
- 助成金額：326,000円

研究課題 多摩川鳥類カウント再現



久保田 繁男

特定非営利活動法人 横沢入里山管理市民協議会 理事長

- 研究期間：2年
- 助成金額：134,872円

研究課題 プラスチック製産卵誘致容器の活用によるトンボ類の保護・増殖

－研究助成成果報告書について－

これまでに助成した研究のうち、下記のものについて成果報告書をご提出いただきました。
 なお、成果報告書は、東急財団ホームページでご覧いただけます。

種別	成果報告書番号	研究者氏名 (敬称略)	所属・役職 (採択当時)	課題名
学術研究	343	春日郁朗	東京大学大学院工学系研究科 准教授	多摩川における薬剤耐性遺伝子の動態に及ぼす下水処理水の影響評価
	344	矢澤優理子	千葉大学大学院 園芸学研究科 環境園芸学専攻	多摩川中流域の湧水水路網における景観構造の解明と保全・活用方策の提案
	345	端 昭彦	東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻 特任助教	多摩川における感染力を有した腸管系ウイルスの動態解明
	346	鏡味麻衣子	横浜国立大学大学院 環境情報研究院 教授	多摩川河口域における水生菌類の多様性と有機物分解機能の評価
	347	黒木真理	東京大学大学院農学生命科学研究科 助教	多摩川水系におけるニホンウナギの保全のための資源生態調査
	348	岡田往子	東京都市大学 工学部 原子力研究所 准教授	多摩川水系における天然及び放射性物質の環境総合評価
	349	山村雅幸	東京工業大学 情報理工学院 教授	多摩川の微生物生態系モデル構築による下水処理水の影響や季節変動の解析
	350	今井伸夫	東京農業大学 准教授	多摩川源流域における「耕作跡地の二次草原」の生物多様性とその時空間動態
	351	元木 悟	明治大学農学部 准教授	多摩川流域のアブラナ科アブラナ属の地域在来野菜における遺伝的由来と品種および栽培特性に関わる研究
	352	高尾美鈴	中央大学大学院経済学研究科	多摩川流域の親水と環境保全に関する研究－流域住民の意識、行動と流域自治体の政策スタンスについて
一般研究	247	小坂克信	立川市文化財保護審議会委員	用水を地域資源として活用するための水利用の歴史－砂川用水を例にして－
	248	伊藤教行	特定非営利活動法人R. I. La 理事	多摩川中流域におけるオイカワをマーカーとしたマイクロプラスチック汚染調査
	249	渡部一二	水縁空間デザイン研究所 所長	玉川上水・本水路護岸に作られた「分水口空間」の環境調査 －江戸時代に作られた「分水口空間」の知恵をさぐる－
	250	辻野五郎丸	中央大学理工学部都市環境学科 共同研究員	玉川上水・分水網関連遺構100選の評価と冊子・展示資料の作成
	251	板谷浩男	多摩川流域フクロウ調査研究グループ	多摩川流域におけるフクロウの生息状況確認調査
	252	柴田隆行	多摩川の自然を守る会 代表	多摩川における日本在来河原植物の分布調査
	253	井口三月	御岳山苔の会 代表	御岳山山域 蘚苔類フロラ調査 －御岳山の苔の魅力を発掘し、大切な資源として後世に遺すために－

2 活動支援事業について

第12回「東急財団 社会貢献環境学術賞」を贈呈しました。
受賞者は、北里大学海洋生命科学部 名誉教授 井田 齊氏です。

この賞は、当財団の前身であります、とうきゅう環境財団におきまして、財団設立 35 周年記念事業として、2009 年に創設いたしました。日本の環境分野において学術的、かつ社会的に特に顕著な業績を挙げた研究者を表彰するものであり、以来、環境に関する研究・活動助成、啓発普及と並ぶ、財団の公益事業の柱として継続してまいりました。

本年度は、2020 年 9 月 25 日に開催されました選考委員会における厳正な審査の結果、北里大学海洋生命科学部 教授 朝日田 卓氏よりご推薦をいただきました、北里大学海洋生命科学部 名誉教授 井田 齊氏が受賞されました。

この度の受賞者である井田氏は、長年にわたりサケを中心とした 魚類の生活環境を研究して来られ、放流や捕獲に関する政策を水産行政に提案し、水産資源の確保に尽力されました。また、幅広い年齢の方々を対象とした市民講座を数多く開催するとともに、一般向けの書籍も多数出版されております。これはまさに一人ひとりが幸せに暮らせる真に豊かな地域社会の実現に向けて、地域社会の皆さまと共に社会問題に取り組んでいこうという当財団の活動の主旨に合致したものであります。

なお、今年度の贈呈式は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、受賞者と関係者のみで執り行いました。

【第12回社会貢献環境学術賞レジュメは、東急財団ホームページからご覧いただけます。】



金指理事長より表彰状を授与された井田名誉教授

3 啓発普及事業について

環境学習副読本「ようこそ多摩川へ」の発行

さまざまな生き物を育み、流域の人々に恵みをもたらしてくれる「多摩川」に対し、子どもたちが知識と親近感を持つことを目的に、小学校での授業や課外活動で使用することを想定して 1994 年に制作、累計約 30 万部を配布しています。
本年度は全面改訂を行い、多摩川流域の小学校などへ無償配布しました。



事務局より ー最終号にあたりー

1979年3月に創刊した「財団だより 多摩川」は本号をもって終了となります。本誌は、多摩川の環境回復に向けて、地域の皆さまに多摩川の現状や魅力を幅広く知っていただき、多摩川を愛する方々が増えて交流が活発になることを目指してまいりました。

これまでご愛読いただきました読者の皆さま、そして誌面作成および本誌の配布にあたりご協力頂いた皆さまには、この場を借りてあらためてお礼を申し上げます。

創刊より40余年が経過した現在、我々を取り巻く環境問題も多様化し、また地球規模で大きく変容してきています。私どもは、このような情勢と当財団の新たなミッションである「地域社会の持続可能な発展」を踏まえ、多摩川のみならず環境問題を多面的に捉え「地域の環境課題解決への貢献」を軸に事業を見直してまいります。

終わりに、当財団を発案した東京急行電鉄株式会社（現 東急株式会社）の五島 昇社長（当時）の設立時のメッセージをご紹介します。

「クリーン・多摩川」

五 島 昇

この冬、多摩川にユリカモメの数が次第に多くなったという記事が新聞を賑わしたし、この目でもみた。多摩川が少しずつ生き返っているようだ。

数年前、“多摩川はどぶ川”という汚名を着せられたころがあった。こども時代を多摩川の清流に遊んだ世代にとっては、ささやかなニュースではあるがさびしい思いの中にもホッとしたに違いない。

まだまだ汚れているが、とにかく多摩川がよみがえりつつある。狛江市の主婦を中心とした「多摩川の自然を守る会」「多摩川に花とメダカを」とラブ・リバー運動を推進する川崎青年会議所などの地域社会単位の地道な運動がきっかけとなって、多摩川の浄化に対する一般の関心が高まっていることも事実である。

こうした情勢の中で、東急グループとしても、多摩川およびその流域を事業地域の中心とする以上、もっと積極的に多摩川とその流域の浄化に取り組まねばならないと思い、いま「とうきゅう環境浄化財団」の設立を準備中である。

多摩川をきれいにするための研究に対する助成金の交付、自治体への協力、多摩川浄化についての啓蒙、広報、あるいは流域でのレクリエーション行事などを行なって、むかしのようなのどかさは望めないまでも、地域の人々が心から憩える場にしたいというのがその趣旨だ。

水は、われわれが生きるために絶対に必要な資源である。現在の汚れた水のまま手をこまねいていけば、われわれは必ず多摩川といわず大自然から手痛いしっぺ返しを受けるだろう。後世の人たちのためにも、公害のないきれいな水を残しておきたい。またその責任がある。

[東急グループ誌 とうきゅう 1974年7月号より抜粋]



写真提供：東急株

この設立時の想いは大切に引き継ぎながら、皆さまとのリレーションを続けていく所存でございます。今後の活動方針が決まりましたらご案内申し上げます。

今後とも東急財団をよろしくお願いいたします。

2021年3月
公益財団法人 東急財団
環境部 事務局一同



『憩いの風景』

写真集 DT Moment + DT Smile (東急エージェンシー刊)

撮影者プロフィール

中井精也 (なかいせいや)

1967年、東京生まれ。鉄道の車両だけにこだわらず、鉄道にかかわるすべてのものを被写体として独自の視点で鉄道を撮影し、「1日1鉄!」や「ゆる鉄」など新しい鉄道写真のジャンルを生み出した。2004年春から毎日1枚必ず鉄道写真を撮影するブログ「1日1鉄!」を継続中。甘党。 <http://www.ichitetsu.com/>



- 発行日 2021年3月1日
- 編集兼発行 公益財団法人 東急財団 環境部
〒150-8511
東京都渋谷区南平台町5番6号
TEL 03-3477-6301
東急財団ホームページ: <https://foundation.tokyu.co.jp/>



公益財団法人

東急財団

つながり、はぐくむ 続く未来と真の豊かさ。

「東急財団」は、一人ひとりが幸せに暮らせる真に豊かな地域社会の実現に向けて、皆さまとともに社会課題に取り組んでいく組織を目指します。

国連が定める「持続可能な開発目標(SDGs)※」では、

「地球上の誰一人として取り残さない」ことを誓っています。

私たちもこの誓いの下、多くの方々とつながり、

より良い未来につながる活動に積極的に取り組んでいきます。

※2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された、2016年から2030年までの国際目標。

東急財団のミッション

地域社会の持続可能な発展

重要テーマ

次世代育成

持続可能な発展のためには「次世代の育成」が不可欠です。地域を支える市民活動の担い手への支援など、幅広く将来につながる活動に力を入れていきます。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



とうきゅう環境浄化財団

1974年8月設立



五島記念文化財団

1990年3月設立



東急財団



1970年



とうきゅう留学生奨学財団

1975年10月設立

1980年

1990年

2000年

2010年

2019年4月、
3つの財団がひとつとなり、
新たにスタート!

東急財団の活動

■ 環境部門

社会的責任ある企業としての責務を果たすべく、東急グループの事業地域の中心を流れる多摩川とその流域の環境浄化を目的に、研究助成や啓発活動を行う財団として開始。以来、多摩川とその流域の環境保全・改善に向けて、研究助成や環境活動支援、環境啓発活動に取り組んでいます。

【2019年度までの実績】

研究助成1,280件(学術研究801件、一般研究479件) 助成金総額15億円

●多摩川流域の環境に関する研究助成

・学識研究者および一般の人を対象とした「多摩川およびその流域の環境浄化に関する基礎研究、応用研究、環境改善計画のための研究」への助成

●環境活動支援

・多摩川流域の環境回復に関するイベントや活動に対する助成
・「東急財団 社会貢献環境学術賞」の実施

●環境啓発活動

・環境学習副読本、機関誌の発行



1994年から環境学習副読本の制作・無償配布(流域の小学校等)を開始、現在までに30万部を配布(2020年に内容の全面改訂を実施=写真)。

■ 国際交流部門

日本と諸外国との協調および国際理解の促進、国際交流・文化交流の増進、友好的な善隣関係の樹立を目的に、外国人留学生への奨学助成をする財団として活動を開始。以来、外国人留学生に対する奨学金給付や交流活動で、経済的・精神的支援に取り組み、国際親善にも寄与しています。

【2019年度までの実績】

奨学生28カ国912人 奨学金総額27億円

●留学生支援制度

・日本の大学院で勉強・研究しているアジア・太平洋諸国からの留学生に対する返済義務を伴わない奨学金給付、国内学会出席旅費補助、医療費補助
・奨学生のための例会、研修旅行、社会見学をはじめとしたコミュニケーション活動



これまでの奨学生が家族連れで集う「合同例会」



高尾山ハイキング



奨学制度説明会

■ 文化芸術部門

文化的に豊かな社会の実現と、日本および世界の文化の向上・発展に寄与すべく、芸術・文化の分野での優秀な新人や、創造的で優れた芸術活動を行っている団体への顕彰・助成を行う財団として、活動を開始。オペラと美術の分野における有望な若手人材への贈賞や助成、日本のオペラ団体への公演助成を行い、文化芸術の振興に取り組んでいます。

【2019年度までの実績】

新人賞137人(オペラ部門75人、美術部門62人)、研修成果発表108件(オペラ53件、美術55件)、オペラ公演助成137件 助成金総額13億円

●芸術家育成支援

・オペラ・美術分野における今後の成長が期待される若い人材を選抜し、「五島記念文化賞」を贈賞、1年間の海外研修費用を助成
・帰国後の研修成果を発表する機会の提供および助成

●芸術活動助成

・オペラ公演に対する助成



五島記念文化財団設立15周年記念ガラ・コンサート(於:Bunkamura)

美術部門 新人賞受賞者
手塚愛子(現代美術)の
成果発表展覧会(2019年)



